

2. まちづくり分科会について

内 容

- ①浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの達成状況・成果について
- ②浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの評価について
- ③(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画について
- ④行動計画に位置付けられた実践方策の概要について
- ⑤(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画の行程イメージについて
- ⑥将来イメージについて
- ⑦(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画の目標値(案)について
- ⑧浦和美園～岩槻駅周辺地域の沿線開発による人口設定について
- ⑨さいたま市成長加速化戦略について
- ⑩岩槻の人形イベントについて

①浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの達成状況・成果について

地区	目標指標	I 期			II 期			
		基準値 (H23年度)	H25年度 実績	H26年度 実績	H27年度 実績	H28年度 実績	H29年度 目標	
浦和美園 駅周辺	定住人口 ・浦和東部第二地区(H29.2事業完了) ・岩槻南部新和西地区(") ・浦和東部第一地区(施行中) ・大門下野田地区(施行中) ※実績は各年度1月を基準	(単位:人) 8,000 7,000 6,000 5,000 4,000	4,135	4,766 / 5,003	5,100 / 5,566	6,100 / 6,334	7,100 / 7,531	8,100 / 9,654 目標の8.1千人を達成
	商業・業務施設来訪者	—	ホームセンター立地		大型電機店立地	大型電機店立地 大型商業施設立地	約11千人/日超増 H29年10月に商業・業務事業者へ聞き取り調査実施	目標の8千人/日を達成
	教育施設学生	—	施設誘致推進中					約1千人/日超増
	イベント開催 ・埼玉スタジアム2002公園内及び浦和美園駅周辺 ・フリーマーケット ・埼玉スタジアムグラウンドの利用等	1年間当り 約424千人	約339千人 平均値388千人	約399千人	約432千人	約380千人	年約30千人超増 差66千人	454千人
	スポーツ開催 ・埼玉スタジアム2002でのレッズ戦(Jリーグ他) (年間20試合)	1試合当り 約29千人	約34千人 平均値36千人	約35千人	約38千人	約37千人	約13千人超増 差6千人	約42千人
岩槻駅 周辺	観光機能拠点 (仮称)岩槻人形博物館 (仮称)にぎわい交流館いわつき	—	施設整備中 H29.3実施設計開始					約70千人超増 (仮称)岩槻人形博物館着工(H29.12)
	イベント開催 ・岩槻まつり ・鷹狩り行列 ・まちかど難めぐり 等	1年間当り 約451千人	約441千人 平均値477千人	約504千人	約492千人	約471千人	約30千人超増 差4千人	約481千人

②浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(43方策)の評価について

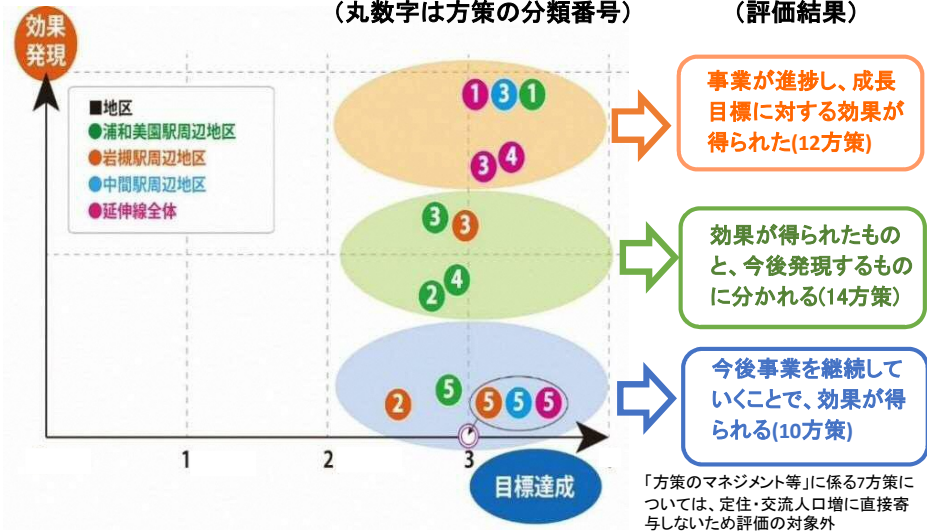
■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価について

(第Ⅰ期)
平成24年度
～
平成26年度
プラン推進の初期であることから、目に見える成果がまだ現れてこなかった。
⇒**基本的にプランを継続**

成長・発展プランの推進

(第Ⅱ期)
平成27年度
～
平成29年度
事業が進捗し、目に見える効果が現れてきた。
⇒**平成28年度実績(一部平成29年度実績)を基に、43方策の評価を実施し次のステップへ**

■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価(丸数字は方策の分類番号)



(主な評価結果の分析)

・延伸線全体での地域の情報発信(ウェブ配信)については、タイムリーな更新、改善を行ったこと、定住コンテンツ(住民の生の声)を取り入れたこと等でアクセス数が増加した効果が高かった。(●●●●)
・目白大学の学園祭とコラボした農業イベントや大学の教室を活用した公開講座等により中間駅周辺の交流促進に効果があった。(●)
・各種イベントについては、PR強化等により多くの参加があった。3区連携ふれあいウォーキングでは、ルート変更やおもてなしの充実等、創意工夫を行ったことにより、多くの参加があり交流促進に効果があった。(●)

・美園での土地区画整理事業については、UR施行地区で事業が終了し、定住促進に寄与した。今後は、他地区でも事業を推進し、東京2020大会までに概ね概成する予定である。また、H31年度に小・中学校が開校予定であり更なる定住促進が期待できる。(●)
・「大門宿まつり」や「みそのいち」など地域主体のイベントも新たに開催され、交流促進につながった。(●●)
・岩槻では、イベント内容の改善に努め、また鷹狩り行列と人形供養祭、その他のイベントを同日開催することで相乗効果を図り、多くの来訪者で賑わい、交流促進の効果があつた。
一方、観光機能拠点である人形博物館については、平成31年度末に完成予定であり今後、効果が発現する。(●)

・岩槻駅西口土地区画整理事業整備は、事業推進中であり、今後地権者による土地活用や安心・安全な歩行空間が確保されることで賑わいが創出され効果が発現する。(●)
・今後、美園タウンマネジメント協会やみその都市デザイン協議会等によりまちなみ景観をはじめとするまちづくりが検討され、それが実現することで効果が発現する。(●●●●)

方策の分類

地域の情報発信

1 ブランドイメージ戦略

まちの基盤整備

2 施設誘致・整備
3 土地利用促進方策の推進
4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進
5 憩い空間の創出
13 スマートホーム・コミュニティの普及

地域資源を活用した交流

6 観光機能の強化(散策ルート、観光マップ、地場産販売、外国人観光客誘致など)
7 イベント開催、誘致(埼玉スタジアム2002活用、スポーツ・健康にちなんだイベントなど)

地域内移動の確保

8 パークアンドライドの検討
9 バス路線の変更
12 超小型モビリティの導入促進

将来に向けた検討

10 アーバンデザインセンターみその整備事業
11 みその都市デザイン協議会
14 埼玉スタジアム駅設置に合わせたまちづくり方策の検討
15 国際スポーツタウン構想の推進

岩槻駅周辺地区

2 19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進
20 岩槻駅周辺環境整備

3 17 観光施策の推進体制の強化
18 人形文化・観光機能拠点の整備
21 歴史・文化にちなんだイベントの開催
22 観光機能の強化

中間駅周辺地区

3 23 目白大学、目白クリニックとの連携
24 農業交流
26 イベントの開催、誘致(健康・スポーツにちなんだイベント)

5 25 施設誘致・整備
27 新駅設置に合わせたまちづくり方策の検討

延伸線全体

1 36 地域の情報発信・PR

3 29 イベントの開催、誘致
30 観光機能の強化
31 見沼田圃を活用した交流
35 埼玉高速鉄道線沿線活性化、交流促進

4 32 浦和美園から岩槻までの快速バス運行
33 移動方策(バスなど)の充実
34 自転車ネットワークの検討

5 28 施設誘致・整備施設の立地を想定した開発可能性の検討(市街化調整区域)

方策のマネジメント等

37 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会
38 延伸線整備基金
39 地下鉄7号線延伸整備調査
40 地下鉄7号線延伸運営調査
41 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議
42 浦和美園～岩槻地域移動実態調査
43 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議

③-1 (仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画について

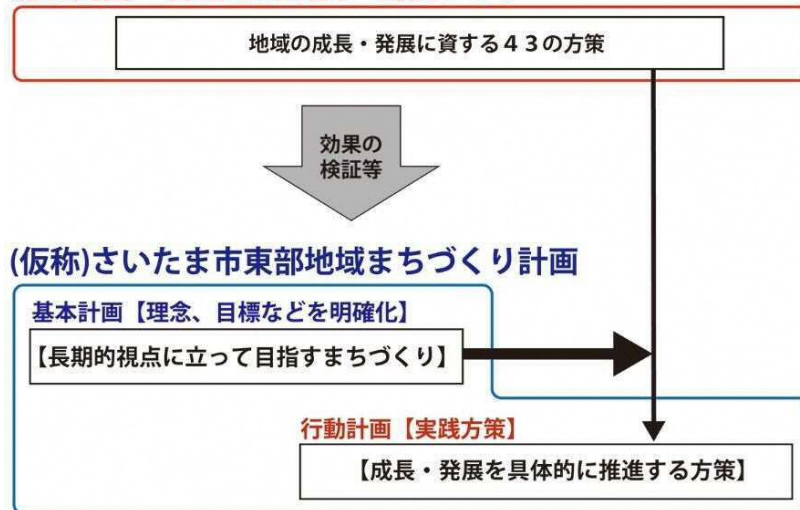
1. 成長・発展プランの改定のイメージ

成長・発展プランは平成23年度の「地下鉄7号線延伸検討委員会」の「延伸実現に資する方策」や議会の提言等を踏まえ策定した経緯があることから、方策の推進(実行)を強く打ち出したプランとなっており、まちづくりの方向性等は示しているものの、理念や方針が明確に示されていない等の課題が見えてきた。

成長・発展プランの第Ⅱ期の最終年度である平成29年度を迎え、平成28年度までの効果の検証や本市の計画等との関連などを考慮し、東部地域(浦和美園～岩槻地域)の持続可能なまちづくりに向けた理念や目標等を明確化した基本計画と、成長・発展を具体的に推進するための方策である行動計画に区分し、わかりやすく示すこととした。

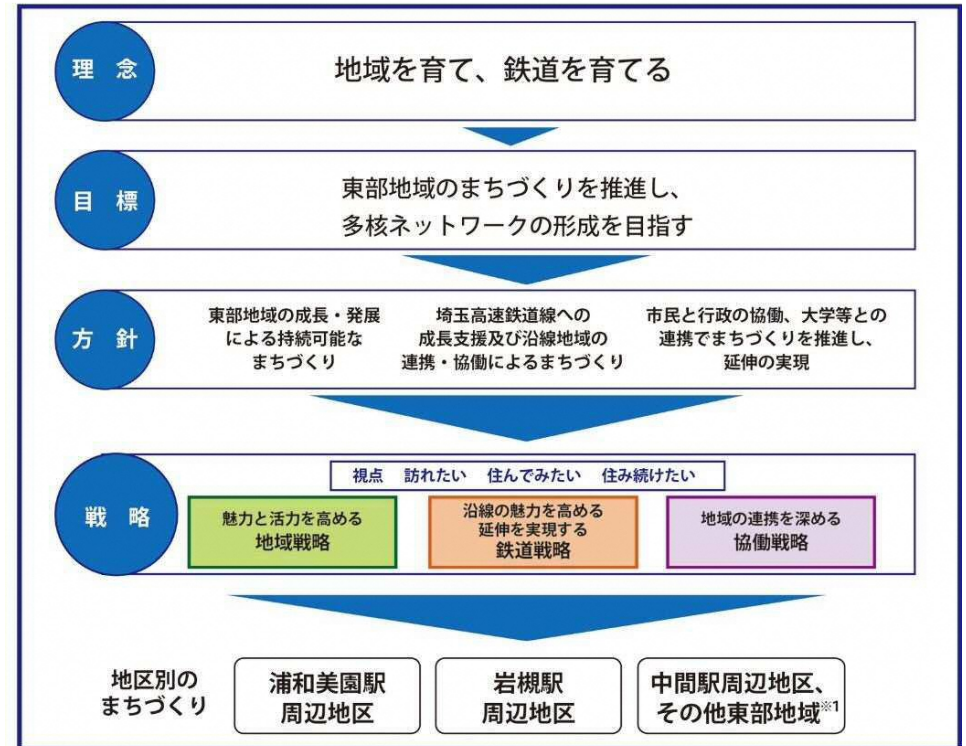
また、これまでの成長・発展プランから「(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画」へ名称を変更し、長期的な視点に立ってネットワーク形成を目指す東部地域のまちづくりについての計画として始動させる。

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン



2. 基本計画、行動計画の概要

基本計画



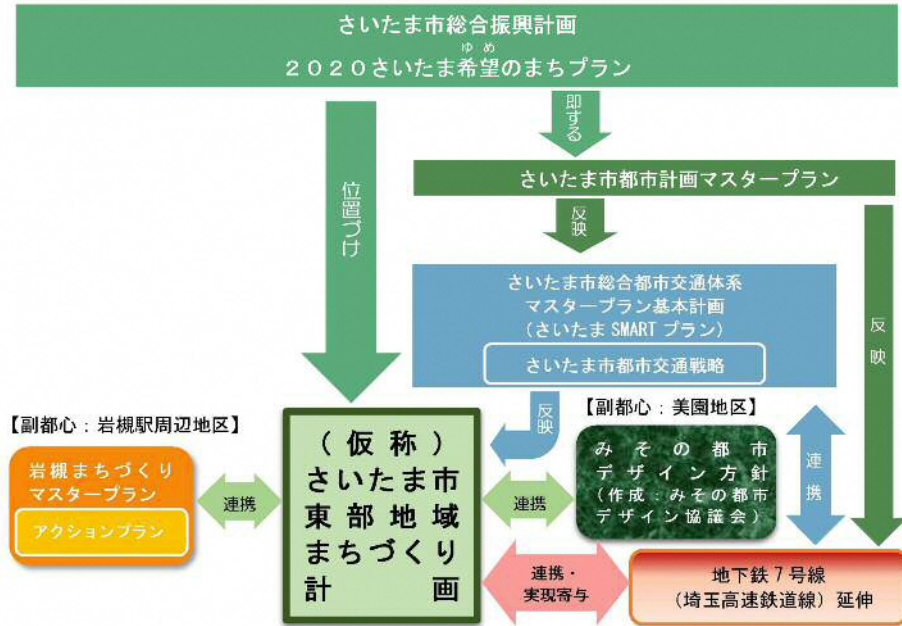
行動計画



③-2 (仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画について

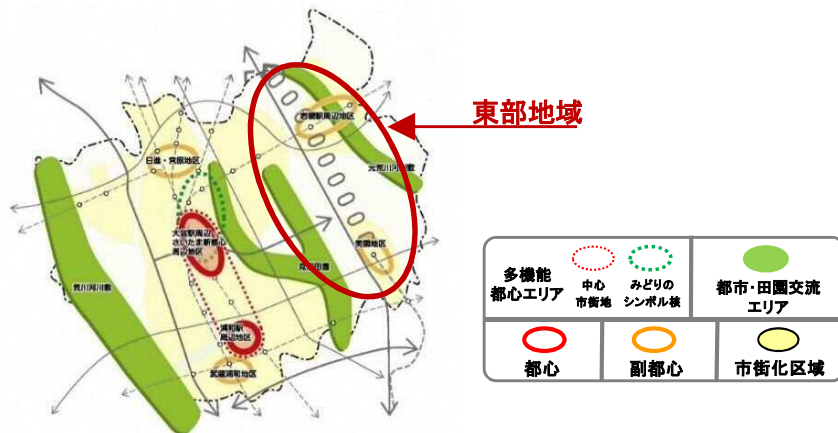
3. 計画の位置づけ

(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画(以下「本計画」という。)は、2020さいたま希望のまちプラン(総合振興計画後期基本計画)により位置づけられ、みその都市デザイン方針や岩槻まちづくりマスタープランと連携して推進する計画である。また、都市鉄道等利便増進法適用による地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸の実現にもつながる。



4. 計画の対象範囲

本計画の対象となる東部地域は、下図のとおり副都心である美園地区と岩槻駅周辺地区の周辺とそれぞれを結ぶ地域である。



5. 計画の目的

本計画は地域の魅力を高め、定住・交流人口を増加させ、同地域に計画されている地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸事業の評価を向上させ、コンパクトシティ+ネットワークを実現し、持続可能なまちづくりを目指すための計画である。

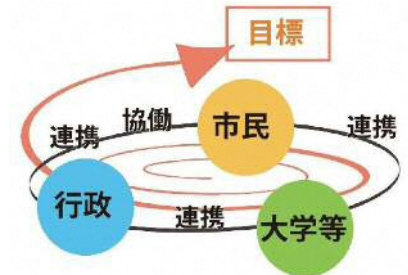
また、本計画を進めたことによるまちづくりの効果を市全体に波及させることにより相乗効果が生まれ、均衡ある成長により市全体の価値を高め「東日本の中核都市」づくりを推進する。

6. 計画の進め方

本計画を進める上で、まず市民(市民組織、企業、NPO等の各種団体なども含む)と行政(自治体)が連携・協働し、まちづくりを推進することが、地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)へも好影響をもたらす、延伸事業への評価を向上させ、「鉄道事業者による延伸へとつながる」ことの共通認識を図る。

目標の達成に向けては、地域社会を構成する市民をはじめとしたすべての関係者と行政の相互理解のもとそれぞれの役割と責任を担い目標実現に向けて参画・連携・協働により推進する。

また、国・県・沿線自治体や鉄道事業者と連携し推進する。



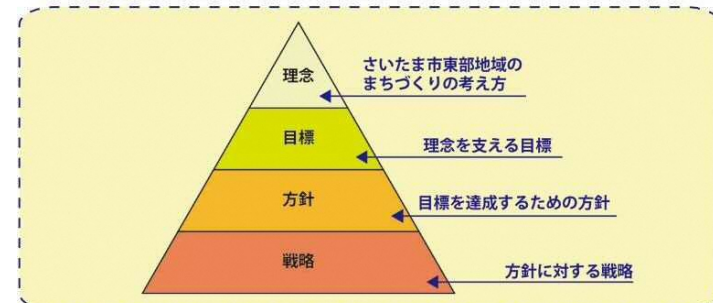
7. 計画の構成

本計画は、長期的視点に立って東部地域の持続可能なまちづくりを目指し、まちづくりの理念や目標、戦略等を示した『基本計画』と、基本計画において示された戦略等に基づき、東部地域の成長・発展に向けた実践方策をまとめた『行動計画』によって構成されている。

基本計画においては、東部地域におけるまちづくりの考え方として理念を示し、その理念に基づきまちづくりを推進し、本市として達成すべき目標を定めている。

さらに、目標を達成するためのまちづくりの方針を設定し、その方針に対する戦略を定め東部地域の各地区においてまちづくりの実践方策を展開する計画としている。

基本計画



行動計画



8. 東部地域の目指すまちの姿

理念

地域を育て、鉄道を育てる

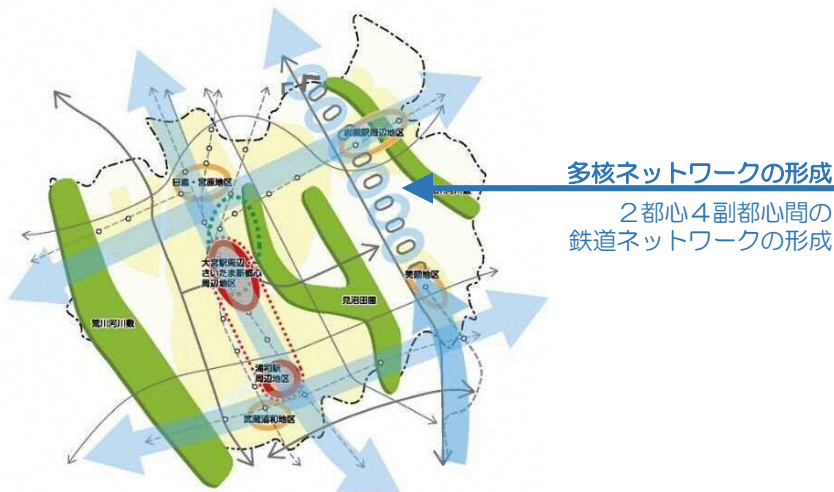
～ひと・まち・鉄道がつながるまちづくり～

鉄道の延伸はひとが暮らしやすいまちづくりのための一つの手段であり、市民、企業、行政等が連携・協働して東部地域のまちづくりを推進し鉄道ネットワークの形成を図る。

目標

東部地域のまちづくりを推進し、
多核ネットワークの形成を目指す

東部地域のまちづくりを推進し、多核(2都心、4副都心)ネットワークの形成のため地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸実現を目指し、市全体の均衡ある発展により「東日本の中枢都市」づくりを推進する。



方針

1. 東部地域の成長・発展による持続可能なまちづくり

浦和美園駅周辺は新たなまちを創造し成長・発展を続けており、岩槻駅周辺は古くから歴史・文化を守り育んできたまちであり、さらに魅力と活力を高めることが望まれる。この異なる個性あるまちの間に位置する中間駅周辺においては地域資源を活用したまちの創造を進める。それぞれのまちの成熟度を考慮し、持続可能なまちづくりを進める。

2. 地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)沿線への成長支援及び沿線地域の連携・協働によるまちづくり

関係自治体が連携し、鉄道事業者への成長支援を行う。また、鉄道事業者、沿線地域の人々、関係自治体が連携・協働したまちづくりを進め、沿線地域の魅力向上を図る。

3. 市民と行政の協働、大学等の連携でまちづくりを推進し、延伸の実現

すべての関係者が協働し、地域おこしをはじめとしたまちづくりを推進し、連動して鉄道の延伸を実現させる。大学や専門機関などの専門家からの知見を活かした助言、連携、協力等によりまちづくりを進める。

戦略

東部地域へ「訪れたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」という視点を基にまちづくり方針に対する戦略を構築する。

訪れたい「誰もが地域の魅力に感動を覚えるまち」
住んでみたい「誰もが地域の文化や美しさに共感できるまち」
住み続けたい「誰もが安心・安全でふれあいのある地域社会の中で郷土愛と誇りが持てるまち」

魅力と活力を高める
地域戦略

沿線の魅力を高める
延伸を実現する
鉄道戦略

地域の連携を深める
協働戦略

③-4 (仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画について

9. 行動計画について

行動計画の目的

行動計画は、まちづくりの理念や目標、方針等を掲げた『基本計画』において示された戦略に基づき、東部地域の成長・発展に向けた実践方策をまとめたものである。

行動計画の実践方策を推進することで目標に掲げた「東部地域のまちづくりを推進し、多核ネットワークの形成」を達成し、東部地域の持続可能なまちづくりを目指す。

基本計画

地区	まちづくりの方向性	戦略
浦和美園駅周辺地区	スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造	地域戦略 スポーツ、健康、環境・エネルギーをはじめとした、先進的なまちづくりの取組や効果を市全体へ波及させることにより、持続可能なまちづくりにつなげるとともにまちの魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 埼玉高速鉄道と地域の連携を深め、イベントの開催等により既設線沿線の魅力を高めるとともに、地下鉄7号線の延伸実現に向けた検討を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。
岩槻駅周辺地区	城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出	地域戦略 城下町や人形などの歴史・文化的資源等を最大限活用するとともに、都市機能の向上を図り、まちの魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 イベントの開催などにより、地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の交流を促進させるとともに、地下鉄7号線の延伸実現に向けた検討を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。
中間駅周辺地区・その他東部地域	自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造	地域戦略 緑豊かな田園風景や自然環境等の地域資源を活用した交流により地域の魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 イベントの開催などにより、地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の交流を促進させるとともに、今後の社会情勢等を考慮し、新駅設置と段階的なまちづくりを実現するため調査・研究を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。

各地区の戦略と実践方策の分類

基本計画において定めた各地区におけるまちづくりの方向性や3つの戦略に基づき、行動計画では、東部地域の成長・発展に向けた実践方策を7つのカテゴリーに分類し、具体的にまちづくりを推進する。

行動計画

関連する戦略	実践方策	
地域	地域の情報発信	定住促進や交流人口増を図るためウェブサイトやメディア等を通して地域の魅力を発信する。
地域	まちの基盤整備	土地区画整理事業による都市基盤整備や、生活利便施設等の立地により、魅力のあるまちを創出する。
地域	地域内外の移動確保	公共交通の充実や、公共交通を補完する交通手段を導入することにより、地域内外の回遊性を高める。
鉄道	地下鉄7号線延伸実現に向けた検討	延伸実現に向けた調査・検討を行う。
協働	地域が連携・協働したまちづくり	地域住民や企業等と連携・協働したまちづくりの実施や、関係機関等と連携を図る。
地域 鉄道	持続可能なまちづくりに向けた検討	地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくりや、企業誘致に向けた検討等を行う。
地域 鉄道 協働	地域資源を活用した交流	埼玉スタジアム2002や、自然環境、歴史・文化など、東部地域の様々な資源を活用したイベント等を開催し、交流人口の増加を図る。

④-1 行動計画に位置付けられた実践方策の概要について(浦和美園駅周辺地区)

◎まちづくりの方向性:スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造

■実践方策と主な計画

地域の情報発信

◎ウェブサイトによる浦和美園～岩槻地域の情報発信



ホームページ

◎スマホアプリ「美園子育てスタイルBambi」での情報発信

・若い子育て世代をターゲットに「まちのお医者さん」、「子育て世帯向けイベント」等の情報を配信(美園タウンマネジメント協会実施)

まちの基盤整備

◎土地区画整理事業の推進

・4地区の土地区画整理事業を推進し、良好な市街地整備を行う
 ・浦和東部第一地区内の駅前保留地等の活用について地権者等と検討(浦和東部第一地区は平成32年までに概成)

◎小中学校の整備

・小学校、中学校が平成31年度開校予定

◎スマートホーム・コミュニティの普及

・平成31年度までに美園スマートホーム・コミュニティモデル街区に一戸建てが整備予定(平成30年度約40戸、平成31年度約50戸)



スマートホーム・コミュニティ(H28年度33戸完成)

地域資源を活用した交流

◎浦和美園まつり&花火大会



◎日光御成道 美園 大門宿まつり



◎埼玉スタジアム2002公園でのキッチンカーグルメ選手権



地域内外の移動確保

◎次世代(電動)バスの開発・実証事業

・東京2020大会に向け、サッカー会場となる「埼玉スタジアム2002」とバスケット会場「さいたまスーパーアリーナ」を繋ぐ低炭素な拠点間輸送システム
 ・東京2020大会レガシー創出を目指す



◎マルチモビリティシェア 全市へ波及



超小型モビリティ



シェアリングサイクル

関連する主な計画

◎さいたま市成長加速化戦略(H29.12策定)

・副都心の都市機能の向上、まちのブランド差別化を図るために、「公民+学」による総合生活支援サービスの提供等を進め、「美しい園」にふさわしい都市環境を形成することを明記

◎みその都市デザイン方針(H29.4策定)

・個性と魅力が感じられる都市空間・都市環境の形成を進めるための地区共通の指針として、本地区が目指すべき都市デザインの方向性を明記

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくり方策の検討

◎事業者ヒアリングの実施など

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

◎地下鉄7号線延伸に向けたまちづくり需要調査など



地域が連携・協働したまちづくり

◎河川、河川調節池の活用

・綾瀬川の歩行環境整備



綾瀬川将来イメージ

左:(出典)みその都市デザイン方針
 右:(出典)綾瀬川デザインワークショップ

・河川調節池の底面利用



河川調節池の底面利用イメージ
 (出典)綾瀬川デザインワークショップ

◎スタジアム参道の歩行空間の確保、景観誘導



スタジアム参道の将来イメージ
 (出典)みその都市デザイン方針

■これまでのまちづくりの成果

主なハード事業

◎戸建住宅、大型マンション整備



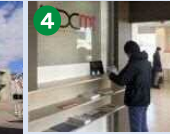
91戸の戸建住宅 (H29.6完成)



317戸のマンション (H30.4完成予定)



複合公共施設(コミュニティセンター、図書館、支所等)(H28.1完成)



UDCMi (H27.10完成)



商業施設(H29.3開業)



銀行(H29.11完成)



認可保育所 (地区内に6箇所開設)

民間・市民団体等の取組



浦和美園まつり&花火大会 (10月)



みそのいち



都市デザイン

④-2行動計画に位置づけられた実践方策の概要について(岩槻駅周辺地区)

◎まちづくりの方向性:城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出

■実践方策と主な計画

地域の情報発信

◎モニターツアーの実施

・岩槻のまちを体験し、魅力を感じてもらうため、モニターツアーの実施
※モニター意見を参考に今後の賑わい方策を検討するとともに、モニターを通じて魅力発信

◎新たな観光情報誌の作成

・ターゲット(女性や外国人等)に合わせた観光情報誌等の作成



ターゲットイメージ

まちの基盤整備

◎土地区画整理事業の推進

・岩槻駅西口土地区画整理事業を推進中(2028年事業完了予定)

◎新たな施設等の整備

・(仮称)岩槻人形博物館、(仮称)にぎわい交流館いわつき(2020.2開館予定)等の整備

◎岩槻歴史街道の整備

・地元協議会が「裏小路まちなみづくりの指針」を作成(H30年2月作成)



(仮称)岩槻人形博物館 岩槻歴史街道の整備 観光案内サインの整備

地域資源を活用した交流

◎歴史・文化的資源を活用したイベントの実施

・長谷川家見世蔵(国登録有形文化財)等を活用し、論語教室、歴史散策事業等を実施



長谷川家見世蔵

地域内外の移動確保

◎乗合タクシー、コミュニティバスの拡充検討

◎シェアサイクル等の拡充検討

・民間企業によるシェアサイクルの実施(岩槻区で2箇所)



シェアサイクルイメージ(セブンイレブンニュースリリクスより)

関連する主な計画

○さいたま市成長加速化戦略(H29.12策定)

・副都心としての岩槻地区の都市機能の強化を行うことを明記。(都市機能の強化に向けた取組の推進)

○岩槻まちづくりマスタープラン(平成24年11月策定)

・「城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまち」を地域が目指す姿とし、岩槻駅周辺地区の今後のまちづくりの目標、取り組みの方向性を示している。

○岩槻まちづくりアクションプラン(平成30年度改定予定)

・豊かな歴史・文化資源を生かした都市型観光に軸足を置いたまちづくりを推進する視点から、観光機能強化を推進している。
・今年度、第2期プランへ改定中。「観光案内サイン等の整備」など7事業を新規に追加予定。

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎まちの融合

・駅舎完成により駅の東西が結ばれ、新旧の街並みや地域コミュニティの融合を図る

◎地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくり方策の検討

◎土地活用の検討

・岩槻駅西口土地区画整理地内の土地所有者を対象とした土地活用セミナーを実施



土地活用イメージ



岩槻駅西口土地区画整理事業

岩槻駅

4

3

5

2

1

7

6

8

岩槻歴史街道の整備
※裏小路まちなみづくりの指針作成(H30年2月作成)

(仮称)岩槻人形博物館 整備
(仮称)にぎわい交流館いわつき

(平成25年撮影、一部イメージ図)

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

地域が連携・協働したまちづくり

◎地域の連携

・商店会、人形組合、まちづくりNPO法人等が連携しまちづくりを実施

◎住民主体のイベントの創出

・五節句(人日(1月)上巳(3月)端午(5月)七夕(7月)重陽(9月))に合わせたイベントを創出



端午の節句(こいのぼりくぐり)

愛宕神社大難段飾り(H29.2~3開催)

■これまでのまちづくりの成果 主なハード事業

4	岩槻駅舎 (H29.3完成)	岩槻駅西口駅前広場 (H29.3完成)	観光案内所 (H29.3オープン)
---	-------------------	------------------------	----------------------

歴史・文化資源やイベントの実施

5	6	7	8	イベント
国登録有形文化財	地域資源			
大正館	岩槻郷土資料館	時の鐘	岩槻城址公園	岩槻鷹狩り行列 まちかど雛めぐり

④-3行動計画に位置づけられた実践方策の概要について(中間駅周辺地区、延伸線全体)

◎まちづくりの方向性:自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造

■実践方策

地域の情報発信

◎ウェブサイトによる浦和美園～岩槻地域の情報発信



ホームページ

◎見沼たんぼを題材とした写真コンクールの開催



作品募集チラシ

◎観光マップ(美園～見沼たんぼ)の発行(埼玉高速鉄道)

まちの基盤整備

◎鉄道建設時に合わせて開発

・中間駅周辺のまちづくり

地域資源を活用した交流

◎自然環境や農業等を活用したイベントの実施



さいたまーチ
見沼ツアーウォーク



いわつきマルシェ in 目白大学



クリーンウォーク募集チラシ



みぬま秋フェス in さぎ山

地域内外の移動確保

◎快速バスの運行



快速バス
(岩槻駅⇄目白大学⇄浦和美園駅)

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎今後の社会情勢等を注視し、段階的なまちづくりについて調査・検討

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

地域が連携・協働したまちづくり

◎市民組織との連携

・さいたま市地下鉄7号線延伸事業化推進期成会と連携し、延伸線全体のまちづくりを推進する

◎目白大学との連携

・目白大学とさいたま市が包括連携協定を締結(平成28年10月)



目白大学
ホームページより



■主な地域資源



国指定 重要無形民俗文化財
岩槻の古式土俵入り



国指定史跡 真福寺貝塚



見沼たんぼ



桜回廊



目白大学



目白大学クリニック

⑤(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画の行程イメージについて

【東部地域のまちづくりのイメージの考え方】

- 鉄道は、まちづくりを進める一手段であり、まちの装置でもある。
- コンパクトシティ+ネットワークのまちづくりを目指す。
- 自治体は、コンパクトシティのまちづくりを推進する。
- 鉄道事業者によるネットワークの構築を目指す。
- 自治体と鉄道事業者で連携によるまちづくりを推進する。

【まちづくりの方向性】

- 浦和美園駅周辺地区：スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造
- 岩槻駅周辺地区：城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出
- 中間駅周辺地区：自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造

